

広報紙

秀友便り



発行：医療法人秀友会 札幌秀友会病院 札幌市手稲区新発寒 5 条 6 丁目 2-1 電話：011-685-3333

ホームページ：<https://www.shuyukai.or.jp/>

地域住民との運動教室と体力測定会

2025 年 3 月に北海道リハビリテーション専門職協会を通じ、当院理学療法士による地域住民との体力測定会と個別フィードバック（2023 年のデータと今回の測定データを比較・評価）を実施しました。

測定結果からいくつかの傾向が見られ、特に「片脚立ち」の時間が短くなっている参加者が多く見受けられました。これはバランス能力の低下を示す可能性があり、外出機会の減少と共に運動量も減少し、バランスや脚力を弱めることにつながります。そこで、外出する機会が減り、運動不足を感じている方には地域の交流会や運動教室への参加をご提案しております。運動をすることで、体力の向上だけでなく、地域の方々との交流も深まり、心身ともにリフレッシュできます。

当院では、2019 年より地域住民の健康維持を目的とした運動教室を開始し、現在までに登録人数は開始当初の 16 名から 38 名に増えました。参加者は主に 60～80 歳代の方々と、日々体力向上に向け取り組んでおります。健康づくりの一環として、運動教室に興味がある方は、お住まいの地域の運動教室をお探しの上、ご参加してみてもはいかがでしょうか。



AED研修会を開催しました

当院では、職員が救命に係る場面に遭遇したときに AED（Automated External Defibrillator：自動体外式除細動器）を使用できるよう、実機（訓練用）を用いた研修会を開催しました。多職種 113 名の職員が参加し、実際に AED を操作しました。

初めて実践する職員もありましたが、担当看護師の指導により効果的な心臓マッサージの方法を学ぶことが出来ました。今後も積極的に医療安全に関する取り組みや対策を推進して参ります。



令和 7 年度 新採用者オリエンテーションを開催しました

当法人では 4 月 1 日より 3 日間、新採用者オリエンテーションを開催し、多職種 33 名の職員が参加しました。

講義では社会人としての基礎や当法人の沿革、各部署・事業所の業務・連携を学び、グループワークでは協調性のある積極的な意見交換が行われました。法人各事業所を巡るバスツアーも企画されており、楽しんで参加している様子が伺えました。

職員一同、新入職員の皆様のご活躍を期待しております。
また、地域の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご指導の程、

宜しく願い申し上げます。



第 45 回 札幌市病院学会で当院より 3 演題発表

2025 年 2 月に開催された第 45 回 札幌市病院学会で、当院の看護部から回復期リハビリテーション病棟の看護師 1 名、放射線科から診療放射線技師 2 名が演題発表を行いました。

同学会は市内の医療施設に勤務する医療従事者による学術交流の場として、長年にわたり医療の質向上に貢献してきた歴史ある学会です。

■看護部 3 病棟（回復期リハビリテーション病棟）看護師

井勝 梨恵 さん

『脳卒中患者と家族の QOL 実現に向けた看護支援について考える』

意思決定に関わる患者さん・ご家族の意見を取り入れながら援助していくことの重要性を学びました。また、他病院からは重症患者との関わりや他の職種との連携方法、新人看護師への教育についての発表等がありました。今後もこのような他の医療機関との情報共有・意見交換に積極的に参加していくことで、地域医療の発展及び当院でのより質の高い医療の提供に邁進してまいります。

■放射線科 診療放射線技師

藤原 稔己 さん

『CXR-AID による解析結果の妥当性の評価』

近年注目されている AI 技術（人工知能）を活用した胸部 X 線画像診断支援システム（CXR-AID）の臨床応用について研究を行いました。このシステムは胸部 X 線画像から異常所見を自動検出する技術ですが、実際の臨床現場でどの程度信頼できるのか、また医師の診断をどのように補助できるのかを検証しました。

■放射線科 診療放射線技師

渡邊 莉久 さん

『麻痺のない患者と脳卒中による麻痺のある患者の体組成に関する当院での検討』

当院に入院している患者さんのデータを分析し、脳卒中による麻痺の有無が体組成（筋肉量や脂肪分布など身体の構成要素）にどのような影響を与えるかを研究しました。この研究は、リハビリテーションの効果測定や個別化された治療計画の立案に役立つ知見を提供します。

